

(別表第4)

第三セクター情報公開資料

1 第三セクター名称等									
名称	株式会社 黄桜の里			電話番号	0184-69-2611				
所在地	秋田県由利本荘市東由利老方字畑田28番地			FAX番号	0184-69-2839				
設立年月日	平成7年5月25日			HPアドレス	http://www.ont.ne.jp/~k-yurari/				
2 資本金	96,000千円	市出資金	90,000千円	市出資割合	93.8 %				
3 事業内容	1. 道の駅「東由利」関連施設の管理運営(東由利温泉保養施設黄桜温泉「湯楽里」(温泉、売店)、東由利産地形成促進施設(レストラン)、ファーストフード店等) 2. 道の駅「東由利」に係る受託業務(駐車場、トイレ、休憩施設等の維持管理) 3. 上記に関連する一切の事業								
4 財務状況(令和2年3月31日現在)									
貸借対照表から	項目	金額(千円) 税抜			損益計算書から	項目	金額(千円) 税抜		
		前々年度	前年度	本年度			前々年度	前年度	本年度
	総資産	55,263	46,899	27,268		総収入(売上高+営業外収益+特別利益)	210,891	202,239	190,640
	負債	14,455	19,221	13,070		(内市からの補助金・指定管理料)	27,986	27,873	28,127
	(有利子負債)	0	0	0		経常利益	△ 5,247	△ 12,946	△ 13,295
	純資産	40,808	27,678	14,198		当期純利益	△ 5,431	△ 13,130	△ 13,479
利益剰余金	△ 55,193	△ 68,322	△ 81,801	減価償却前当期利益	△ 5,369	△ 13,075	△ 12,572		
5 役職員の状況(令和2年3月31日現在)									
取締役数(うち市出向者・退職者)		6 (退0)		正職員数(うち市出向者・退職者)		19 (退0)			
6 第三セクターへの関与の状況(単位:千円 税込み)									
(1) 公的支援(令和2年3月31日現在)									
項目	前々年度	前年度	本年度	備考(目的、内容、算出根拠等)					
①補助金(助成金)	0	0	0						
②利子補給	0	0	0						
③税の減免額	0	0	0						
④その他	0	0	0						
小計	0	0	0						
⑤損失補償契約に伴う金利軽減額	0	0	0						
⑥出資金、低金利貸付等に伴う機会費用	0	0	0						
小計	0	0	0						
合計	0	0	0						
【参考】指定管理料(税込)	30,059	30,103	30,661	道の駅周辺施設					
(2) その他(令和2年3月31日現在)									
項目	前々年度	前年度	本年度						
①損失保証契約に係る債務残高	0	0	0						
②貸付金残高	0	0	0						
③出資金(増資等)	0	0	0						
合計	0	0	0						
7 添付資料 貸借対照表、損益計算書									

※本資料は、第25期決算報告書(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)に基づいて作成したものである。

決算報告書

(第26期)

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

株式会社 黄桜の里

由利本荘市東由利老方字畑田28番地

0184-69-2611

事業報告書

第26期

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

今期におきましては、13,479千円の純損失となり、昨年に続き10,000千円を超える赤字計上になりました。冬期間は昨年の状況を踏まえ、固定費を下げるため、1月度より営業時間の時短を実施し、燃料費と人件費の削減に取り組んで参りました。また真空包装器を活用し過剰在庫の見直しを行い、売上原価の改善を実施しております。年度末3月には、月次の損益分岐点売上高を10,000千円と試算し、単月の黒字を目指して参りましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により宴会キャンセルが相次ぎ、結果を残すことができませんでした。弊社の直近の課題は、固定費と変動費を自社の規模に見合ったものに改善し、損益分岐点を下げることにあります。年度末に直撃したコロナ禍の影響は来期の営業にも多大な影響を与えることになると予想されます。しかし、宴会売上に比重を置いた現在の営業計画を抜本的に見直すよい機会ととらえ、最小限の宴会売上で黒字化するため、他部門の具体的な底上げ策を来期実施して参ります。

- ◎ 経営状況におきましては、現預金額が年々減少しており、厳しい状況となっております。昨年12月末時点では、前年の支出を踏まえれば、緊急で経費削減策を打ち出す必要があり、入浴とレストランの時短営業を実施致しました。燃料費と人件費の削減のため行いましたが、2月以降から少しずつ結果が見え始めておりました。その後、新型コロナウイルス感染拡大により3月度は大きく減収したため、今後は国の助成金等も全て活用し進めて参ります。
- ◎ 当期純利益におきましては、前年同様13,000千円台の赤字となり、13,479千円の純損失を計上しております。過去3年間の損益分岐点売上高は平均で184,000千円以上で算出されており、いずれの年も売上目標には到達せず赤字計上となっております。月次の損益分岐点売上高を昨年並みの売上に引き下げたために、固定費削減に取り組んで参りましたが、コロナ禍の影響でさらに見直しをしていく必要があります。
- ◎ 各部門別営業状況

フロント部門(温泉入浴他)

フロント部門におきましては、冬期間の経費削減策として1月度より、20時までの時短営業を3月16日まで実施致しました。暖冬の影響もあり、時短営業が客数に大きな影響を及ぼすことはなく、予算対比102%、前年対比110%で今期を終えております。3月には温泉入浴料の条例改正が決まり、来期6月1日より値上げを行うこととなりました。コロナ禍の影響で先行きは不透明であります。来期改善策の大きな柱と期待しております。

レストラン部門

レストラン部門におきましては、冬期間の人件費節減策として、1月より平日の営業時間を20時までの時短営業と致しました。3月より平常営業に戻す計画でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により土日も含めて時短営業を延長し、人件費の節減を実施しております。また集客策も並行して実施し、時短お詫び企画として「Happyアワー」(17時～20時まで生ビール・カクテルが格安企画)を実施致しました。しかし、年間予算客数に対して1日平均客数20名分及ばず、改めてお客様ニーズに合ったメニューや販促企画を提供し、今後店の魅力を上げていくように運営して参ります。
(26期予算対比 86.9% 前年対比 100.8%)

宴会部門

宴会売上におきましては、売上額最低ラインである70,000千円を下回る62,880千円となり、レストランと同様今期のマイナス要因となっております。今期は4月以降、月次の予算を達成できる月がほぼない状態が続きました。しかし、例年資金繰りが厳しくなる1月以降、秋口からアプローチしていたお客様の受注が多くなり、また歓送迎会イベントの予約も順調でありました。その最中新型コロナウイルスの影響が拡大し、3月度においては697名の予約キャンセルが相次ぎ、新規予約0という事態に陥りました。この影響で次年度も宴会の収支計画は立てられない状況ですが、宴会中心の営業計画を抜本的に見直し、他部門の増客策を検討して参ります。
(26期予算対比 76.3% 前年対比 89.6%)

ファーストフード部門

ファーストフード店では、前期は人員不足により、正規の店舗運営ができなかったため、大きく減収しました。今期に於いては、前期減収分6,000千円を上積するべく進めて参りましたが、秋以降客数が減少し前年比2,230千円の増で終えております。26期売上高、17,234千円は、試算している損益分岐点売上高24,000千円には及ばず、過去3年間の平均売上を達成しているのはソフト部門のみでした。今後は伸び悩んでいる主力のラーメンの売上を、年間5,000千円まで押し戻すべく販促策を講じて参ります。
(26期予算対比 82.1% 前年対比 114.9%)

売店部門

売店部門におきましては、宴会客のお土産購入が宴会売上高に比例し減少しており、26期予算対比91%、前年対比93%で終えております。来期は宴会の受注の見通しが立たない為、営業計画の見直しを行っております。現在進めておりますのは「東京東由利会」会員の皆様へのふるさとセットの販売であります。会長様、役員様に了承をいただき、会員の方々に定期的にDMを発送しご縁を結んでいきたいと考えております。また、ふるさと納税返礼品にも力を入れ販路拡大を狙います。

第1号議案

第26期(平成31年 4月1日～令和 2年 3月31日まで)

① 貸借対照表、損益計算書 承認の件

貸借対照表

第 26 期 (令和 2年 3月31日現在)

損益計算書
(平成31年 4月1日～令和 2年 3月31日まで)

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
A 流動資産	15,581,014	流動負債①	10,315,626
現金・預金	9,866,657	買掛金	1,997,344
売掛金	366,104	未払法人税等	184,000
たな卸資産	5,089,983	未払費用	5,501,482
その他流動資産	258,270	前受金	0
B 固定資産	11,687,206	預り金	105,400
有形固定資産	1,810,532	未払消費税	2,456,500
建物	28,275	金 券	70,900
車輦・運搬具	1,539,736	固定負債②	2,754,000
工具・器具・備品	165,445	D 負債合計①+②	13,069,626
建物付属設備	77,076	資本金③	96,000,000
一括償却資産	0	資本剰余金④	0
無形固定資産	76,440	利益剰余金⑤	-81,801,406
投資等	9,800,234	繰越利益剰余金	-81,801,406
出資金	115,000	E 純資産合計③～⑤	14,198,594
保険積立金	9,397,584		
保証金	0		
長期前払費用	287,650		
C 繰延資産	0		
A+B+C 資産合計	27,268,220	D+E 負債及び純資産合計	27,268,220

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
売上高	159,641,572	売上原価	61,368,067
計①	159,641,572	計②	61,368,067
①-②		A 売上総利益	98,273,505
		販売費及び一般管理費	142,557,522
		計③	142,557,522
A-③		B 営業利益(損失)	-44,284,017
営業外収益	30,997,808	営業外費用	9,252
(委託料収入 29,826,477)			
計④	30,997,808	計⑤	9,252
B+④-⑤		C 経常利益(損失)	-13,295,461
特別利益	499	特別損失	1
計⑥	499	計⑦	1
C+⑥-⑦		D 税引前当期純利益(損失)	-13,294,963
		E 法人税及び住民税	184,108
		F 当期純利益(損失)	-13,479,071

(単位:円)税別

(単位:円)税別